

関西国際空港と関空関連事業



これは、地域の使命であり、責任です!

### 挑戦! 再び世界と戦える

# 南泉州地域を創る!

# 7兆円超の事業

約10年間に及んだ2度の『大阪都構想』住民投票を終えて、人生の後悔は、やはり、地元の南泉州地域の繁栄です。

## 巨額の投資額をしつかり活かし、世界を目指す! 関空一列目 南泉州地域

『再び?』南泉州地域は、繊維産業が華やかかりし時代、大阪の成長をけん引し、世界と戦ってきた歴史があるのです。

そもそも、大阪の産業構造の転換・世界と戦う地域を目指して、関空とともに建設されてきた南泉州地域。そんな南泉州地域を眠らせているのは、国益を損ない、大阪府の成長を阻害している。

日本・大阪の成長をけん引しなければならぬ使命がある!

世界と張り合える海岸リゾート 南泉州地域の海際は、垂直護岸でなく、自然海岸や波打ち際を有する。

従って、特に波打ち際は、世界と張り合える海岸リゾートとして貢献すべきだ。

その後、産業構造の転換が遅れ、バブル崩壊後の大阪府の不良債権処理において「負の遺産」と位置付けられ、不幸で過酷な時代を経て、本当に長い間、停滞してきました。

7兆3300億円!

この間の関西国際空港及び関空関連整備の事業費の総計は、なんと、7兆3300億円。

再び、世界と戦う南泉州地域を創出する、世界トップレベルの仕事・所得・雇用がある地域を目指

幻の『南泉州市』を見直し、実現へ!

そのためには、世界と戦える地域を創出できる力強い自治体、統一感のある方向性の打ち出しも必要だ。

関空一列目を、世界と戦える地域にする!

そして、その推進力となる

幻の『南泉州市』(泉佐野市・田尻町・泉南市・阪南市・岬町)の実現を目指す!

これが、人生最後の自分の命の使い方だ! そう覚悟をしました。

令和4年 早春  
大阪府議会議員  
土井 達也

(以上の内容は、令和4年3月8日 大阪府議会 2月定例会 本会議 一般質問にて、宣言したものです。)

泉州南合併協議会

協議会の概要		取組状況			府の支援	
【名称】	泉州南合併協議会	■協議会開催の経過			●合併重点支援地域の指定 (H15.11.26)	
【設置日】	平成15年11月1日	開催日	場所	決定(協議)事項	●支援本部幹事会地域部会の設置 (H15.11.26)	
【事務局】	泉佐野市高松北 (大阪南部綿織工業協同組合ビル内)	第1回	H15.12.1 泉南市総合福祉センター	○会議運営規程 ○事業計画 ○予算	●協議会への運営費補助	
【委員構成】	会長1名と委員45名の計46名 会長: 宮本 勝浩氏 (大阪府立大学経済学部長) 委員: 内訳下表のとおり (定数50名以内)	第2回	H16.1.8 泉佐野市立泉の森ホール	○合併協定項目 ○スケジュール ○基本方針 ○合併の期日(17年9月) ○合併の方式(新設合併) ○新市の名称 ○新市事務所の位置 ○小委員会設置規程	●合併重点支援地域の指定解除 (H16.11.4)	
		第3回	H16.2.2 阪南市立文化センター	○各職身分の取扱 ○行政委員会等の取扱 ○審議会・委員会・一部事務組合等の取扱 ○町名・字名の取扱 ○慣行の取扱 ○新市建設計画の策定方針 ○新市まちづくり懇談会設置要綱	各市町村の取組状況	
		第4回	H16.3.1 田尻町立公民館	○財産の取扱 ○地域審議会の取扱 ○使用料・手数料①、○消防団の取扱 ○補助金・交付金等の取扱 ○16年度事業計画・予算 ○シボゾム実施要綱	※ 構成各市町で調査研究報告書に関する住民説明会を開催 (H15.5~6)	
		第5回	H16.4.1 岬町立体育館	○新市の名称募集要項 ○使用料・手数料の取扱① ○条例・規則等の取扱、○組織及び機構の取扱 ○介護保険事業の取扱 ○生活福祉事務事業の取扱	◎ 阪南市・田尻町・岬町・泉南市の3月議会で住民投票条例(首長提案)を議決。	
		第6回	H16.4.21 泉南市総合福祉センター	○地方税 ○保険予防事業関係、 ○法律相談事業関係	◎ H16.5.7 第7回合併協定後の首長会議で、「住民投票日を8月22日」とする。	
		第7回	H16.5.7 泉南市総合福祉センター	○児童福祉事業関係 ○消防・防災事業関係 ○使用料・手数料② ○交通事業関係 ○公共的団体等	◎ H16.8初 各市町・住民説明会の実施	
		第8回	H16.5.19 岬町立体育館	○使用料・手数料③ ○新市建設計画小委員会報告	◎ H16.8.22 住民投票の実施 泉南市・阪南市・田尻町で反対多数となる。	
		第9回	H16.6.1 泉佐野市立泉の森ホール	○下水道事業関係 ○環境事業関係、 ○国民健康保険関係 ○学校教育事業関係 ※財政推計・新市建設計画を報告	◎ H16.9 各市町で協議会廃止議案の議決	
		第10回	H16.7.2 阪南市立文化センター	○上水道事業関係 ○農業委員会委員の定数及び任期の取扱い	・ 9/24 泉佐野市 ・ 9/6 泉南市 ・ 9/3 阪南市 ・ 9/14 田尻町 ・ 9/13 岬町	
		第11回	H16.7.20 泉南市総合福祉センター	○新市の名称(南泉州市) ○新市の事務所の位置(新庁舎建設までは現泉佐野市役所、他2市2町の庁舎は総合支所) ○公営住宅関係 ○高齢・障害者福祉関係	◎ H16.9.30 合併協議会廃止	
		第12回	H16.8.2 田尻町立公民館	○児童福祉事業関係 ○電算システム		
		第13回	H16.9.1 泉佐野市立泉の森ホール	H16.8.22 泉南市(×)、阪南市(×)、田尻町(×)、岬町(○)で住民投票実施 ○泉南市・阪南市・田尻町が「離脱表明」 ○協議会の廃止(解散)の報告・確認		
				■H16.6.13 「泉州南合併シンポジウム」開催		
【議決経過】						
		議決日	採決状況			
		泉佐野市	H15.10.24 賛16:否5			
		泉南市	H15.10.24 賛13:否9			
		阪南市	H15.10.24 賛17:否1			
		田尻町	H15.10.24 賛7:否5			
		岬町	H15.10.24 賛13:否1			
【備考】						
※ 法定協議会設置までの取組						
○ 泉州南広域行政研究会の設置						
(H13.5設置、H14.8泉佐野・田尻が加入)						
13年度府ケーススタディ調査の実施						
14年度調査研究の実施						
○ 研究会主催のシンポジウム開催 (H15.5)						
○ 各市町での住民説明会開催 (H15.5~6)						
○ 構成各市町長が法定協議会設置を合意 (H15.8.19)						

	泉南市	阪南市	田尻町	岬町
投票率	36.95	38.07	68.49	43.78
賛成票(率)	4,579 (23.89)	4,056 (22.04)	444 (10.95)	4,042 (56.29)
反対票(率)	14,218 (74.19)	14,088 (76.54)	3,583 (88.36)	3,019 (42.04)

千人の「紀の川市(5町合併)」では、こんな立派な庁舎を建設。

合併特例債を活用し、人口5万8千人の「紀の川市(5町合併)」で、こんな立派な庁舎を建設。

平成の大合併による和歌山県内の合併特例債の枠は、ナント!「1600億円」!

現在の市町村数を、都道府県別にみると、「大阪府」の市町村数よりも人口の多い「東京都」や「神奈川県」の方が少ないのです。

大阪府43、東京都39、神奈川県33。大阪府内の市町村数は、多すぎます!

平成の大合併 結果

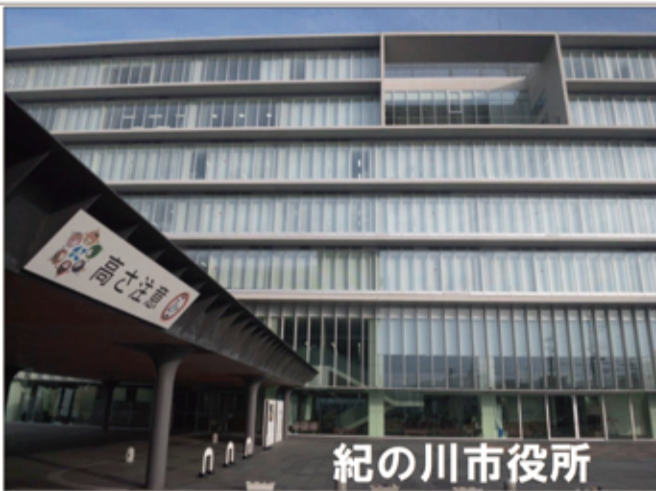
	前・市町村数	後・市町村数	減少率
和歌山県	50	30	-40.0%
神奈川県	37	33	-10.8%
東京都	40	39	-2.5%
大阪府	44	43	-2.3%
...	...	...	...
全国計	3,232	1,718	-46.8%

幻の「南泉州市」(泉佐野市・田尻町・泉南市・阪南市・岬町) 上表は、約20年前の合併法定協議会の概要です。

南海トラフ大地震の際、庁舎は、災害対策本部になるため、どこも立派です。



同様に、人口5万人を切った「海南市(1市1町合併)」では、県の施設も活用して、庁舎は4年前に建設。総額約40億円の庁舎に合併特例債を活用し、市単費4億円で建設。



【土井達也 経歴】 阪南町立下庄保育所、下庄小学校、貝掛中学校、桃山学院高校進学後父の転勤で千葉県立船橋東高校卒 明治大学卒、和歌山大学大学院修了(経済学修士)、東亜大学大学院(法学修士) (兼長谷工コーポレーション) 阪南市議会議員、大阪府議会議員、総務委員長、大阪府監査委員、(全国唯一の維新過半数)府議団代表 第113代大阪府議会議長(議会改革で大阪府議会を日本一に!)

市町村M&Aは、南泉州地域最大の「イノベーション」! 「自治体DX」・行政手続きのオンライン化や「適正な場所への支所の配置」で、広域で市政運営が可能。現在、「田辺市」が近畿圏で面積最大市(直線でも市内50km!)だが、実際の視察では、「龍神温泉」など以前より活況を呈している。

合併後約20年が経過し、海南市の職員数の推移は、合併当初、749名(海南市531名+下津町218名)に対し、令和3年には517名まで削減。旧下津町の職員数よりも多く削減を実現。

和歌山県海南市 職員数の推移

年度	職員数(人)	H16年度との差(人)
平成16年度	旧海南市531人 旧下津町218人	0
令和3年	517	-232

海南市提供資料より

合併のスケール・メリット